

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	21H05051	研究期間	令和3(2021)年度 ～令和7(2025)年度
研究課題名	悪性リンパ腫における遺伝子異常を基盤とした発症機構・分子病態の統合的解明	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	片岡 圭亮 (慶應義塾大学・医学部(信濃町)・教授)

【令和5(2023)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究は、悪性リンパ腫において同定された遺伝子異常の機能解析と分子機構の解明、生体内 CRISPR スクリーニングによる遺伝子異常の検証、CRISPR 制御部位スクリーニングによる B 細胞リンパ腫特異的 PD-L2 発現制御機構の解明、単一細胞マルチオミクス解析の応用と微小環境の解明、ヒト検体由来の遺伝子解析データの臨床応用を目指すものである。</p>		
(意見等)		
<p>研究開始から2年程度経過したが、応募時点で所有していたこれまでの実績とノウハウを活用し、ヒト検体を効率的に収集する研究組織を構成することによって、当初の予定どおりに成果を上げている。研究成果は学会、一部は論文として発表している。生体内 CRISPR スクリーニングをはじめ独自のアプローチで、日本人に多い疾患を対象としている点も評価できる。一方で、将来の臨床応用に向けて遺伝子解析パネルの開発を目指していると記載されているが、それに向けた基礎研究結果を社会実装する具体的な道筋を明確にして進めることが望ましい。</p>		